

令和2年度 第3回 就労支援部会

- 【開催日時】 令和3年1月8日(金) 13:30 ~ 14:30
- 【場 所】 ぴあリンク奄美2階会議室
- 【参加者】 あまみん、奄美共生園、あらいぐま、星窪きらり、夢来夢来、ライトハウス、ユーアイ工房、ていだ、大島養護、ハローワーク、なかぼつ、奄美市福祉政策課、龍郷町保健福祉課、ぴあリンク奄美
- 【リモート】 共生園・のごろ

合計 16名

◎進行：登山 ◎記録：福崎

1.自己紹介

2.事務局より

報告① 新型コロナウイルス感染症対策提出状況について

報告② 前回質問に関する回答

◎自事業所利用者を職員として雇用する際に利用できる制度について

- ・自事業所で雇用した場合の助成金について説明（ハローワーク名瀬）

3.行政から

◎新型コロナウイルス感染症対策説明会について（奄美市福祉政策課）

- ・通所系の事業所、相談支援事業所を対象に2月に開催する予定で調整中。

◎農福連携について（龍郷町保健福祉課）

- ・「農福連携部会（仮）」の立ち上げを検討している。
 - ・参加事業所へは、販路拡大やブランド化など本格的な農業にしていけるように取り組みたい事業所に限定したい。
 - ・大島支庁に協力依頼するので、現在の取り組みを向上したいと考えている事業所に参加してほしい。
- ⇒農業しており、「さらに品質向上を目指したい」「本格的に土地取得などを考えている」というような事業所などに限定して進めたい。
- ・農家の方だけが参加している研修への参加や、補助金の申請など、行政と連携する体制ができればよい。
 - ・それぞれの事業所が作っている作物や、作りたい作物の把握、セット販売などに関しても検討が必要（直接販売するか、加工して販売するか）
 - ・「加工品製造（傷物の加工）」「肥料購入時の団体割引の活用」など行政と連携をとる上で、確認できる場ができればありがたい。

⇒事業を始めるにあたっての設備費、土地取得などに関することも確認できるようにするとよい。

- ・仲介役として、各市町村の農林課ができるように調整したい。
- ・農業のノウハウ、商品化、販売などの全体的なシステムで構築できればよい。
- ・障害特性に合わせて連携できればありがたい。
- ・仕入れる側としても、タイムリーに情報共有できるようなシステムも考えてもらいたい。
- ・事業として継続したいと考えているので、体制が整ったら参加することも考えてよい。
- ・農地借用などについても実績を積み重ねていきたい。
- ・利用者が頑張ることができる環境づくりを目指していけたらよい。

- ・農福連携の部会までできたら、発信できるようになるとも考えている。(奄美モデルを作りたい。)
- ・農業は、担い手不足やなどの問題もある。ぜひ事業化していただきたい。
- ・いずれは、各市町村の企画まで参加させてもらうように広げられたらよい。

- ・「農福連携」に関するアンケートにより、農業の取り組みについて事業所により温度差があることを確認。
⇒作業活動として取り組んでいる事業所と事業化している事業所の温度差がある。
- ・軽作業として、気軽に携われるようにしてほしいという意見もあったため、農業法人に市町村の事業所が施設外就労できるかなどについても確認している。(ハードルが高くないような形式も検討できるのでは)
- ・各市町村担当者に耕作放棄地への対応がどうなっているか確認し、協力を依頼したい。

4.議題

【障害者就労に関するバス運賃補助の要望について】

- ・福祉サービスを利用して、就労する場合に、限定的に補助をするという方向は考えられるかもしれない。
- ・就労準備支援の際に検討してもよい。
- ・実習の時点で利用できる制度があると就労につながりやすいのでは。
- ・鹿児島市の友愛バスなどの制度を見習うことはできないか
- ・B型の場合、工賃よりもバス代が高くなることもあるため、自分で通勤する選択肢が難しい。
(送迎が来るから通える人もいる。)